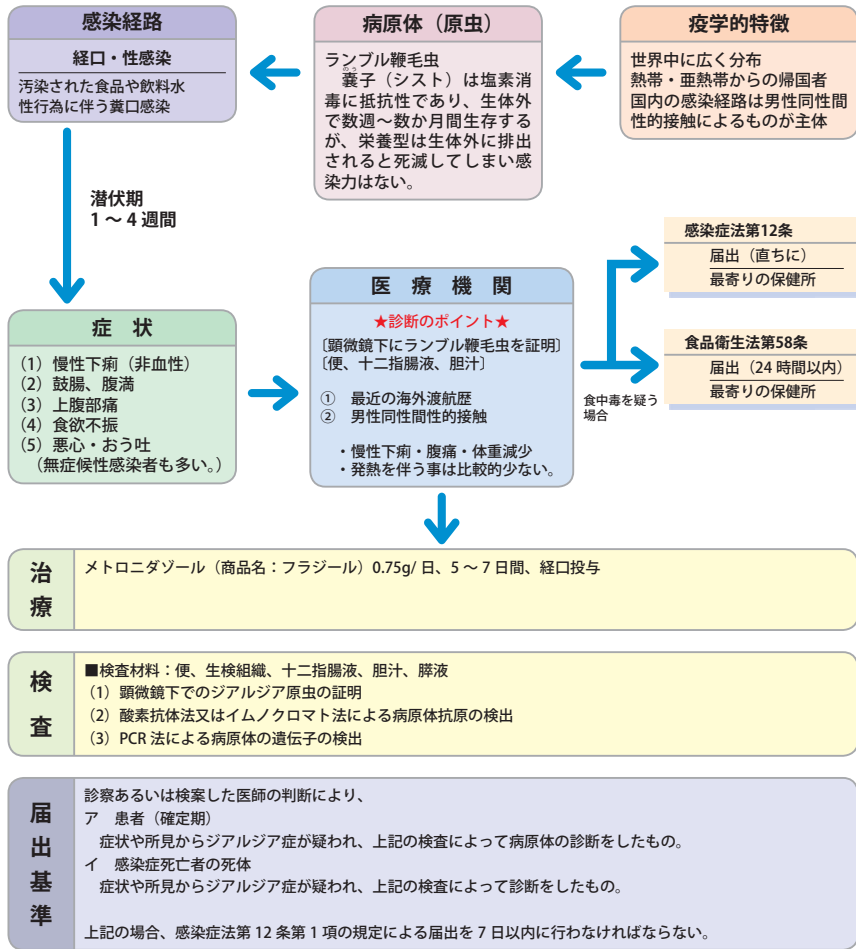


(12) ジアルジア症 (ランブル鞭毛虫症) ……五類感染症・全数

Giardiasis



参考文献

- (1) 澁谷敏朗: ジアルジア感染症 Modern Physician 14: 1994; 1369-1371.
- (2) 大西健児: ランブル鞭毛虫症 (ジアルジア症) 今日の治療 5: 1997; 805～806.
- (3) 熱帯病治療薬研究班: 寄生虫薬物治療の手引き・2016

- 発生状況** 発展途上国を中心に世界で数億人が感染しているとされ、熱帯・亜熱帯に多い。性感染症としても重要で、男性同性愛者もハイリスクグループである。
- 臨床症状** 遷延する慢性の下痢症 (非血性)。鼓腸、腹満、上腹部痛、食欲不振、悪心、おう吐などを伴う。特に発展途上国からの帰国者で便の細菌培養陰性、抗菌薬無効の下痢症例では、本症を考える必要がある。下痢を伴わない無症候性の感染者 (キャリア) も多く、持続的に感染性のシストを排出し問題となる。
- 検査所見** 顕微鏡下で便中にランブル鞭毛虫を証明する。胆汁や十二指腸液の採取を行うこともある。
- 病原体** ランブル鞭毛虫 (*Giardia lamblia*)
栄養体と嚢子 (シスト) があり、無症状のキャリアが持続的に排出するシストも感染源として重要である。
- 感染経路** シストの経口感染。患者及びキャリアの便で汚染された飲食物を介して経口的に感染することが多い。我が国の都市型下水道の生流入水中からは、平常時にも検出される。感受性は一般的。ただし、血清免疫グロブリン低下症や分泌型IgA低下症の症例では難治化、重症化する。
- 潜伏期** 潜伏期は1～4週間
- 行政対応** 患者を診断した医師は、7日以内に指定の届出様式により最寄りの保健所に届け出る。
- 拡大防止** 二次感染を防止するため、接触者、特に有症者では検便を行うことが望ましい。手洗いを励行する。患者の便に接する時は手袋をする。
- 治療方針** メトロニダゾール 0.75g 日、5～7日間、経口投与